

平成23年度秋田地域保健医療福祉協議会 議事要旨

日 時：平成24年3月7日（水）午後1時15分～午後3時

場 所：ルポールみづほ「ふじの間」

出席者：委員11名（※別紙のとおり）

1 協議及び報告

（1）専門部会報告

地域医療推進部会・救急・災害医療検討部会・献血推進部会の内容について、資料3に基づき説明を行った。

議 長： 地域医療推進部会と救急・災害医療検討部会は合同開催されたということだが、出席者の人数が異なっているのはなぜか。

事務局： 両部会で重複している委員もいるが、各部会に所属する出席人数を記載している。

議 長： 脊髄損傷患者に関する説明があったが、脊髄損傷の場合は別途大学病院などに搬送されるのか。

委 員： 秋田組合総合病院で受け入れた脊髄損傷患者さんが、後方支援病院の受け入れ体制が整わずに長期入院となり、救急病床に支障が生ずることがあるという意見が部会で出された。

議 長： 部会について、部会長から何か補足説明はないか。

委 員： ドクターへリの運行が開始されたが、意外に男鹿地区では使われているようだ。鹿角など遠方の地域で使われることが多いかと思ったが、病院を通さずに救急救命士が呼んでいると思う。今後どのようになるのか、症例が積み重なれば来年度あたりに議題として出てくるかと思う。

議 長： 男鹿みなと市民病院で医師がいれば問題ないと思うが、夏場海で溺れた人のドクターへリ移送はあるかもしれない。

議 長： 地域災害医療コーディネーターについては、医師会から推薦することになっている。秋田中央保健所以外に、秋田市は人口が多いため、秋田市保健所にも1人設置するという方針なのか。

事務局： 制度上は医療圏に1人だが、対策として秋田市に1人設置することを検討してほしいとのことであった。基本的には、医療圏に設置して派遣するのが効率がよいということになるかもしれないが、平常時の対策もあるので、秋田市にも1人置くという意見は伝える。ただし、秋田市には地域災害医療対策本部は設置されないので、秋田市災害対策本部の中の秋田市保健所で対策を講ずるということになると思われる。

議 長： 秋田周辺地域と秋田市にコーディネーターが2人いると混乱するのではないか。

- 委 員： 救急医療では、1カ所に決めておかないで、被害が大きいところをバックアップしていくことがある。動けるところが多く動かせればいい。1人だけでは、その人が潰れてしまえば駄目になるため、並列でも順番制でも最終的にどう機能するのか県のトップが決めればよいと思う。
- 委 員： ドクターへリの会議で、運行実績は男鹿地区が最も多く、6人くらいと聞いた。他の地域は天候が悪くてヘリが飛べない場合があったようだ。男鹿は依頼を受けて全部飛んだとのことだった。
- 委 員： ドクターへリの要請に我々は関与していないが、救急隊員が心筋梗塞や脳梗塞と判断して、赤十字病院に直接運んだと思われる。男鹿の場合、ヘリポートまで救急車で20～30分かかる地区もあり、直接救急車で運んだ場合とどちらが近いのかという面もあると思う。
- 議 長： 冬場は飛べるかどうかは半々だと聞いている。
- 議 長： 献血部会で血液事業の運営体制が4月から大幅に変わるということだが、具体的にどう変わらるのか。
- 事務局： 今まで採血から製造、検査、医療機関への供給を秋田県赤十字血液センターが全て行っていたが、組織改編により、秋田県の血液センターをはじめ東北6県が宮城県のセンターに統合され、秋田県には採血部門と供給部門のみが残る。秋田県で採血された血液は新幹線で宮城へ運ばれ、さらに東京へ運んで検査される。秋田県で採血した血液が必ずしも秋田に戻ってくるということではなく、血液製剤が製造された宮城では一部秋田県以外の血液製剤が混ざるということである。経費削減のための統合と聞いている。
- 議 長： 需要に応じた供給はスムーズにできるのか。
- 事務局： 秋田県では常に4500単位もっていないと安定供給はできないと言われている。月によって採血量に差があり、多い月で7000単位、少ない月で3000単位などばらつきがあった。採血した分は必ず血液製剤にしなければならず、これまで製造した血液製剤が期限切れとなっていたこともあったが、今後は東北管内で調整できることとなり、必要な4500単位を常に保管できることから安定供給に問題はない。
- 委 員： 病院で地域連携を担当している。湖東総合病院が救急受け入れや入院受け入れができなくなったことで、中通総合病院へ搬送依頼が最近は増えてきている。組合病院の脊髄損傷患者の話もあったが、地域への返し方が課題であるとしみじみ感じている。今後も、地域の医療連携計画や県全体の課題などを勉強していきたい。
- 議 長： 急性期は別として、少なくとも重症疾患を患ったその後のリハビリを含めた療養型ベッドについて、国はなくす方針だが、設置してほしい。住民にとっては、地域でみてもらうことが安心である。

(2) 平成23年度の主な取り組みについて

今年度当部の主な取り組みについて、資料4により説明を行った。

議長： 自殺予防対策で養成しているメンタルヘルスサポーターはボランティアなのか。

事務局： 全くのボランティアである。市町村が養成した場合は違うのかもしれないが、当部では無償である。ただし、活動しているグループやNPO法人などは市町村から助成金をもらっている場合がある。

議長： 全員登録しているのか。

委員： 登録しなくても研修会での勉強だけでも受け入れている。養成後に地域で活動していくかどうか確認をして名簿に登録する。登録しているサポートは230人いる。

委員： 自殺死亡率は他の保健所管内でも同じ状況か。能代や北秋田管内はどうか。

事務局： 当管内では自殺者の人数は減っているが、人口が減っているため、自殺死亡率は統計的に高くなってしまう。平成21年は、能代では（※人口10万対）47.4人となっている。

委員： 秋田市は少ないが、秋田市以外は多いのか。中央保健所管内だけが多いというわけではないのか。

事務局： 北秋田管内では（※同）50を超えており、由利本荘では（※同）48、ほとんどが（※同）40を超えていている。

委員： 自殺に追い込まれる要因は何か。男鹿市の北浦地区では若い人の自殺が多い。

事務局： どの地区が多いということは言えない。ただし、男鹿市は独自にサポートを養成している。

委員： 働き盛りの自殺が多いが、地域では母が子どもの就職がないということで自殺した。その子ども自身も母の後を追って自殺してしまった。若い人が死ぬということは、仕事がないということであり、就職のことを考えなければならない。やはり身近な人が様子を見てあげることが必要である。

委員： 高齢者の自殺者が多い。各市町村の年齢別自殺者のデータを出してほしい。その上で要因を考えるべきである。民生児童委員も一生懸命取り組んでいるが、2人以上の世帯は問題ないが、3世帯などで自殺者が出ている。障害のある方の自殺もあるが、障害者の名簿は個人情報ということで教えてもらうことができない。自殺した年齢のデータを出してもらいたい。その上で自殺の要因を考え、減らすことをみんなで取り組んでいかなくてはならない。

それから、子育て支援であるが、子どもは産めないと増えない。産むとなれば保育所の問題などがある。色々な支援はあるが、なかなか実を結ばない。子どもを産む環境づくりに取り組んでほしい。

事務局： 自殺に関しては、男鹿市は高齢者が多く、潟上市では働き盛りが多いという傾向はある。自殺者の年齢別の統計については、要望があれば今後デ

ータ提供を検討したい。現在、自死遺族等のアンケート調査が行われております、詳しい調査結果が発表される予定であり、それにより年齢層に応じた具体的な対策が立てられると期待している。

議長： 自殺死亡率、がん死亡率が高いと秋田県のイメージは悪い。がんワースト1を脱するためにみんなで努力していかなければならない。

離職者、無職者の自殺の割合はどうか。

事務局： 仕事を辞めてすぐに自殺したという場合もあり、どの時点で無職になっているのかという境目がわかりにくいことがある。具体的な内容は出すことができない。

議長： 離職者・無職者対策でハローワークに相談窓口のパンフレットを置くということだが、自殺する人は目に入らない。ハローワークで面接した職員がおかしいと思ったら、パンフレットを渡すといったほうが効率的ではないか。

事務局： ハローワークでそのような対応をしてくれることになっている。ハローワークにも相談窓口があり、そういう相談の時にも活用してくれることになっている。

委員： 廃棄物の不法投棄防止のための監視カメラはどのようなところに付いているのか。今後カメラは増えていくのか。

事務局： 今年度設置したのが潟上市昭和地区で、JR奥羽本線近くで、砂地や松林があり、近くに病院もある地区の工場跡の廃屋である。数年前からテレビや冷蔵庫が投棄され、ゴミがゴミを呼んでいる状態であり、潟上市でも困っている。松の木の上にカメラを設置し、記憶装置を付けて撮影している。これはあくまでも抑止力としてのカメラということで、今後はダミーカメラの設置が増えていくと思われる。県としては摘発事例はないが、秋田市では実際の投棄場面が映っていて、警察の摘発事例があると聞いている。

委員： 不法投棄が多い。山間部に監視員を増やすなどの配慮が必要である。県全体のこととしてお願ひしたい。

事務局： 市町村でも監視員を配置している。また、農林や土木、河川パトロールも行われていることから、関係機関との連携を図り、うまく工夫しながら監視していきたい。

3 その他意見

委員： 旅館組合の理事会で関係者から大学病院の近くで、入院患者家族が休息できる部屋を提供していると聞いた。大変よい取り組みであり、応援したい。

委員： 今日の会議は出席率が悪い。委員の皆様もお忙しいと思うが、是非出席していただきたい。

事務局： 今日は、このように欠席の委員が多く、大変申し訳ないと思う。来年度以降は、一人でも多くの委員に出席していただき、色々な御意見を伺いたいと考えている。

平成23年度秋田地域保健医療福祉協議会 出席者名簿

○協議会委員

五十音順

氏名	役職	備考
朝野暢穏	五城目町社会福祉協議会 事務局長	
石川光男	潟上市長	
石田達郎	秋田市歯科医師会 会長	
伊藤千鶴	秋田市保健所長	
大石静香	秋田県看護協会秋田臨海地区支部 支部長	出席
太田春海	男鹿市民生児童委員協議会 会長	出席
加藤政光	湖東3町商工会 会長	出席
川辺斉	県中央教育事務所長	
神田仁	男鹿市南秋田郡医師会 会長	出席
北嶋満雄	秋田県生活衛生関係営業秋田地方連絡協議会 会長	
小玉喜久子	秋田周辺地区結核予防婦人会連合会 会長	出席
佐藤順子	秋田県栄養士会 理事	出席
杉山和	秋田県病院協会 会長	
鈴木組子	秋田周辺地域食生活改善推進協議会 会長	出席
鈴木司	潟上市福祉事務所長	
千葉豊明	男鹿市南秋田郡歯科医師会 会長	出席
坪井純	男鹿市南秋田郡医師会 理事	出席
能登泰之	秋田中央薬剤師会 会長	
畠山菊夫	南秋田郡町村行政連絡協議会長（八郎潟町長）	
福島幸隆	秋田市医師会 会長	出席
穂積志	秋田市長	
門間郁子	公募委員	
山本次夫	秋田中央食品衛生協会 会長	出席
渡部幸男	男鹿市長	